

新型コロナが もたらした 我が家の変化



札幌市医師会
百石内科循環器クリニック

ひゃく こく まさ や
百 石 雅 哉

新型コロナウイルス流行前と後では生活様式がさまざまに変化しました。感染流行当初は、パークゴルフや昼カラオケを楽しみにしていた高齢者は感染を恐れて外出を控える方が増えました。スポーツイベントは中止になり、忘年会などの飲み会や旅行に行くこともできなくなりました。私も友人とのテニスや飲み会への参加、家族との旅行などを感染予防のために自粛し、楽しむ機会が減りました。

そんな中、現在は中学2年生になる息子と釣りを始めてみることにしました。子供の頃、家から発寒川まで数分のところに住んでいたため、学校が終わると釣り竿を持って、友人とよく川に釣りに行ったものでした。40年程前は、発寒川や平和の滝周辺には、ウグイ、メダカ、カジカ、ドジョウ、ヤツメウナギなどさまざまな魚がいました。また、親に余市や小樽にチカ釣りに連れていってもらった思い出があります。約40年ぶりの釣り再開であったため、息子と何度も釣具店に足を運び、釣りに必要な道具を購入しました。まずは、朝4時に起きて小樽に向かい、息子と2人でサバを釣ることができました。初回で魚を釣ることができ、私も息子も釣りの魅力にはまりました。その後は、ソイ、メバル、アブラコなどロックフィッシュと呼ばれる魚を狙って、ロックフィッシュの聖地と言われる室蘭に通うようになりました。土曜の診療後、夕方6時頃に札幌を出発し、夜8時頃から釣りを開始します。数と大きさを息子と競いながら、夜中の2時頃まで釣りをして朝4時～5時頃に帰宅します。家では息子と釣り関連の番組やYouTubeを見て楽しむ機会が増えました。最近では、道南の森町の漁港や、岩内町、泊村などへも足を運び、フィールドを開拓しています。また、カレイ、ヒラメ、ホッケ、ブリなど年中楽しめるのも魅力で、今後、さまざまな魚種にも挑戦しようと思っています。

息子は、中学生になってから親と外出する機会が減りましたが、釣りとなると私と2人でも嫌がらず、むしろ積極的に誘ってきます。家では会話が少ないのですが、釣りに行く車の中や釣り場での会話が増えました。いつまで息子が付き合ってくれるかわかりませんが、新型コロナウイルス流行がもたらした我が家のちょっとしたライフスタイルの変化でした。

